



株式会社ニチレイ

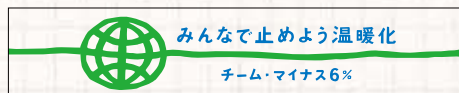
経営企画部(環境保全担当)

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
TEL 03-3248-2232 FAX 03-3248-2129
URL <http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>



ニチレイグループ

CSRレポート2009〈ダイジェスト版〉



ニチレイは、チーム・マイナス6%に参加しています。



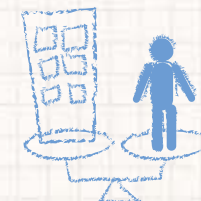
当社は年間100万kWhのグリーン電力を利用し、
本CSRレポートの印刷・製本にかかる
電力(614kWh)相当分をこの一部でまかっています。



Safety of food



Global warming
prevention



Work life balance



Contribution to society



この報告書の表紙は、国内の山林を保全するために切り出された間伐材を原料とした印刷用紙を使用しています。また表紙以外の本文ページは、国産材(間伐材パルプ10%を含む)を70%使用した印刷用紙を使用しています。
インキは「VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロ」のインキを使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行っています。

NAME

株式会社ニチレイ



ニチレイグループの企業経営理念

ミッション

くらしを見つめ、 人々に心の満足を提供する

ニチレイグループは、人々のくらしに本当に役立つ商品やサービスを一所懸命に創り出し、健康でこころの豊かな生活の実現に貢献します。

ビジョン

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

発想と行動の原点

ひたすらお客様のために！

経営姿勢

1. お客様第一、安全第一、品質第一を貫く
2. 健全な利益を追求する
3. 付加価値を適正に配分する
4. 法と社会の秩序を守る
5. 公正な競争に徹する
6. 透明性の高い経営を推進する
7. 資源と環境を大切にする
8. 世界を見据える

ニチレイグループ ブランドステートメント

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルのネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

ステークホルダーのために

お客様に

ニチレイグループは、究極のお客様である生活者の方々に、真に役立つ商品とサービスを開発し、提供し続けます。そして、お客様と当企業グループが、共に繁栄できることを願って、永続的な相互信頼関係を築きます。

株主・投資家に

ニチレイグループは、より収益性の高い事業を選定・遂行して資本効率を高め、企業価値の向上を実現します。また、株主・投資家の方々に適正な還元を行います。

ビジネスパートナーに

ニチレイグループは、ビジネスパートナーの方々に、イコールパートナーとして公正な姿勢で臨み、信頼関係を築き、共存共栄を目指して相互発展に努めます。

従業員に

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。そのために、能力開発と能力発揮の機会の提供、能力と努力と成果に見合った処遇制度の実施、安全で風通し良く活性化された職場環境づくりを行います。また、性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関するあらゆる差別をなくし、処遇の機会均等を実現します。

社会に

ニチレイグループは、地域社会に企業市民として参加し、事業活動を通じて社会の発展に貢献するとともに、ハンディキャップをもつ人々への支援や文化活動などへの参加と支援を継続的に行います。

編集方針

ニチレイグループはCSR活動を幅広いステークホルダーの皆さまにご理解いただき、コミュニケーションを深めるためにCSRレポートを作成しています。2009年度版は、WEBサイトにフルレポートを掲載し、冊子はダイジェスト版として発行しました。

本ダイジェスト版はCSR活動を定義した「6つの責任」(→P.7参照)を背景に、ステークホルダーの皆さまに興味を持っていたような項目(海外素材調達における安全・安心、CO₂削減への取り組み、働きがいの向上、ニチレイらしい社会貢献の推進)について、活動事例などを報告しています。

ニチレイグループCSRレポート2009

URL：http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html
冊子に掲載されていない取り組み事例をWebサイトで紹介しています。また、ご意見・ご感想を簡単に送信いただける仕組みを導入しています。

対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日の活動実績を中心に掲載しています。

対象範囲

ニチレイグループの国内事業所およびグループ会社を対象範囲として記述しています。
(上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記載しています)

発行日

2009年6月(前回発行2008年6月)

※今回の発行で10回目となります。

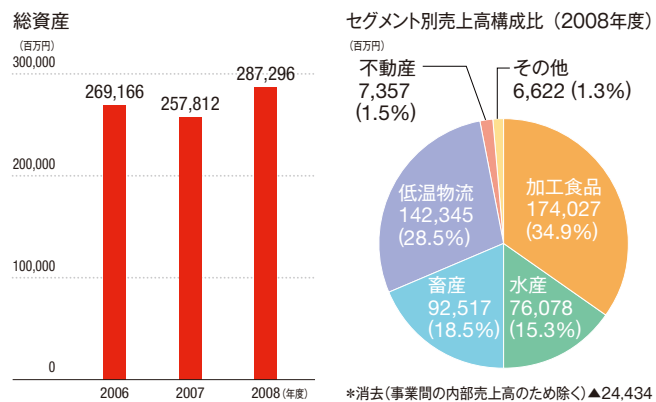
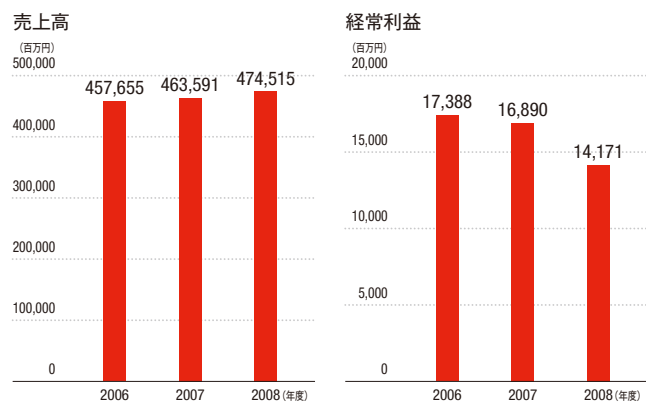
作成部署・お問い合わせ先

株式会社ニチレイ 経営企画部(環境保全担当)
TEL.03-3248-2232 FAX.03-3248-2129

会社概要(資本金および従業員数は2009年3月末日現在)

商号	株式会社ニチレイ
創立	1945(昭和20)年12月1日
資本金	30,307百万円
従業員数	6,250名(連結)
本社所在地	〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
電話番号	03-3248-2101(代表)

業績の推移(連結)



*消去(事業間の内部売上高のため除く)▲24,434

CONTENTS

トップメッセージ	4
ニチレイグループの概要	6
ニチレイグループのCSR	7

海外素材調達における安全・安心 8

中国産冷凍野菜の品質管理
こだわり素材の品質管理

グループの品質保証について

CO₂削減への取り組み 12

食品工場におけるCO₂削減
物流におけるCO₂削減
商品におけるCO₂削減
オフィスにおけるCO₂削減
事業活動と環境負荷

働きがいの向上 18

従業員満足度調査(ES調査)
ワーク・ライフ・バランス分科会の活動
ダイバーシティ推進への取り組み

ニチレイらしい社会貢献の推進 22

食や物流に関する教育
地域社会に対する貢献活動

マネジメント 24

コーポレートガバナンスの確立
コンプライアンスの徹底

ステークホルダーとのコミュニケーション 26

サステナブル経営格付けの結果 27

「6つの責任」を着実に果たすことで

企業活動のなかでCSRを実践

ニチレイは、「ニチレイグループ 6つの責任」(①新たな顧客価値の創造 ②働きがいの向上 ③コンプライアンスの徹底 ④コーポレートガバナンスの確立 ⑤環境への配慮 ⑥ニチレイらしい社会貢献の推進)に基づき、2008年度もグループ一体となってさまざまな施策を推進してきました。

2007年度からスタートした現中期経営計画においては、改めて「6つの責任」を経営の重要課題と位置づけました。私たちの経営は、時代の変化を見極め、社会の要請に真摯に対応しながら、着実に「6つの責任」を果たしていくものだと考えています。

そして、その主役は、第一線でお客様と接している従業員にほかなりません。一人ひとりの従業員が働きがいを感じ、強い使命感を持って仕事に取り組んでこそ、CSRの確かな実践、さらなる進化につながるからです。

ニチレイは、顧客満足度と従業員満足度がグループ成長への両輪であると考え、働きがいのある職場づくりに力を入れています。毎年「従業員満足度調査」を実施するとともに、定期的にグループ人財委員会を開催し、課題や改善策を共有しています。2008年度は、前回調査の結果を踏まえ、職場内コミュニケーションの活性化やワーク・ライフ・バランスの推進など、グループ全体で積極的な取り組みを進めてきました。

人材育成の責任は、持株会社の人事部門や企画管理部門ではなく、各事業会社の社長が担うものと明確化しました。業種・業態によって仕事に求められる能力・スキルも異なることから、各事業会社が適切な教育機会を提供し、個々の従業員のキャリアビジョン形成や能力開発を支援しています。

また、社員一人ひとりが自信と責任感を持って業務に取り組めるように、コンプライアンスの徹底を図っています。グループ共通の「行動規範」および「行動規範事例集」を作成し、全社員に配布するとともに、毎年見直しを行っています。

さらに、組織としての経営基盤を強化するため、コーポレートガバナンスの確立に努めています。各事業会社に権限を委譲し、事業特性を活かした経営を行うと同時に、グループマネジメント体制を整備しています。2008年度からは、金融商品取引法の施行に基づき、「2009年3月末時点の財務報告の信頼性に係る内部統制システムの状況」を内部統制報告書に記載しています。

法律や規制への対応にとどまらず、企業として当然取り組むべき課題と考え、今後もより信頼性の高い経営システムの構築・定着を追求してまいります。

食の安全・安心を守り抜くために

2007年度の中国製冷凍餃子への農業混入事件をはじめ、ここ数年、食の安全・安心を揺さぶる事件が多発し、中国産品、とりわけ冷凍食品への不安・不信が高まっています。

そうしたなか2008年度には、ニチレイフーズが輸入・販売した「冷凍いんげん」から高濃度のジクロロルボスが検出されるという事故が発生しました。まずは健康被害に遭われたお客様に対して、心よりお見舞いを申し上げますとともに、皆さまに多大なご心配をおかけしましたことをお詫びいたします。現在までの警察当局の捜査、社内調査の結果からは、故意の混入の可能性が高いと見られています。

ニチレイグループでは、原料の栽培から加工、物流までのあらゆるプロセスに

CSRのさらなる進化をめざす

における品質管理体制を構築し、安全性の確保を図ってきました。今回の事故発生に際しても、直ちに履歴を遡って調査を行い、拡散はないと判断することができました。現在までのところ、事故対象の1袋を除き、回収した商品からは一切毒物は検出されていません。

今後もグループ品質管理体制を確実に機能させ、製造過程におけるミスやエラーを防止するとともに、今回の事故を教訓として、故意の異物混入などを想定した監視やチェックのさらなる強化を図っていきます。食に携わる企業の責務として、あらゆるリスクから、食の安全・安心を守り抜いていく決意を新たにしています。

地球市民、地域社会の一員として

私たちは、自然の恵みを基盤とする食品事業を展開しており、また国内最大規模の食品物流事業会社を有する企業グループです。事業活動における環境負荷をできる限り削減するために、「2010年度環境目標」に基づき、各事業の特性に応じた施策を立て、目標達成に取り組んでいます。太陽光発電システムや省エネ型照明を導入するほか、物流事業分野においては共同配送やモーダルシフトも積極的に推進しています。

一部商品では、カーボンフットプリントの試行も開始しており、従業員による身近なエコ活動として、環境家計簿の活用奨励などにも取り組んでいます。

また、「食育」「健康と運動」などのテー

マで、事業活動に根ざした「ニチレイらしい社会貢献活動」も盛んに行われています。

活動内容は、子どもたちへの教育や各種イベントを通じてさまざまな機会を提供するとともに、「ニチレイPGMレディス」大会の開催など各種スポーツ支援も行っています。また、ニチレイロジグループが地域の小中学校の校外学習を受け入れているほか、ニチレイフレッシュでは「生命(いのち)の森プロジェクト」として2006年より、海外植林活動を推進し

ています。さらにグループ全体としては、社会福祉や環境、文化活動を支援する「ニチレイふれあい基金」を運営しています。

企業経営におけるCSRの遂行には、地道な継続が重要だと考えています。ニチレイは目標と情報を共有しながら、ひとつひとつの課題に真摯に取り組み、改善と挑戦を重ねていくことによって成長を続け、広く信頼と好感を寄せられる企業を目指します。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



代表取締役会長
浦野光人

代表取締役社長
村井利彰

中期経営計画(2007年度～2009年度)における施策

- 1 事業成長を促進する顧客価値創造への積極的な取り組み
- 2 国内市場での強固な基盤を活かしたグローバル展開
- 3 企業価値向上に資する事業提携やM&Aへの取り組み
- 4 ニチレイグループ品質保証体制の強化
- 5 ステークホルダーの信頼するグループガバナンスシステムの確立
- 6 CSR視点に基づく社会との協調
- 7 働きがいのある組織風土の推進

新鮮なおいしさを食卓にお届けします。

ニチレイグループは、食の調達・生産・加工・物流など各分野での高度な技術と新しいアイデアとをトータルネットワークで結び、新鮮で健康なおいしさを皆さまの食卓にお届けしています。

株式会社ニチレイフーズ

【加工食品事業】

人々の暮らしを笑顔で満たし、世界で最も信頼される企業になることを目指し、「おいしさ」「健康」「楽しさ」「安全・安心」「簡単・便利」「安定供給」「適正価格」という7つの基本価値をモットーに冷凍食品、アセロラ商品、レトルト食品、ウェルネス食品を通じて社会の多様化したニーズに対応し、感動をもたらす新しい食生活シーンの提案をしています。



代表取締役社長：相馬 義比古 資本金：15,000百万円

株式会社ニチレイフレッシュ

【水産・畜産事業】

グローバルな調達機能を活かし、「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードに、水産品・畜産品の「こだわり素材」の開発を進めています。あわせて「持続可能性」を念頭に、資源や環境にも配慮。より高い「生活者価値の創出」を通じて、お客様の期待にお応えできるよう、新たな事業分野への挑戦や社会との調和にも積極的に取り組んでいます。



代表取締役社長：長谷川 寿 資本金：8,000百万円

株式会社ニチレイ

【持株会社】

ニチレイグループ全体を統括する持株会社として、グループ全体の経営プランニング・モニタリング・資金調達・各事業会社の経営支援の機能を有し、企業価値の最大化を目指した組織運営を推進しています。またグループが保有する土地などの資産を有効活用する不動産事業を運営しています。

代表取締役社長：村井 利彰
資本金：30,307百万円

株式会社ニチレイロジグループ本社

【低温物流事業】

輸配送を軸とした物流ネットワーク会社と、冷蔵倉庫事業を担う地域保管会社、低温物流施設の企画から運営管理まで支援するエンジニアリング会社で構成される、国内最大規模の低温物流企業グループです。高度な物流情報システムインフラで結ばれた輸送、保管、流通加工、配送から、物流センターの設計・施工・メンテナンスまで、サプライチェーン全体にわたる高品質なサービスを提供。荷主企業様の物流最適化に貢献し、日本の「食」を支えています。



代表取締役社長：村井 利彰
資本金：20,000百万円

株式会社ニチレイバイオサイエンス

【バイオサイエンス事業】

セルバリオロジーと機能性素材を事業分野に、細胞培養関連試薬・診断薬・化粧品原料などの製造、販売を行っています。グループの素材調達力、細胞生物学・免疫学分野の経験を活かして、医療・美容・健康・バイオ産業の発展に貢献する技術志向型企業を目指しています。



代表取締役社長：荒 剛史 資本金：450百万円

株式会社ニチレイプロサーヴ

【シェアードサービス事業】

事業支援系業務のノウハウを統合したアウトソーサー企業。人事・総務、経理、グループ法務、保険、人材派遣などの多様な専門サービスの提供により、グループ企業をはじめとして、お客様が経営資源をコア事業に集中し、企業価値を高めるための戦略的なアウトソースを支援します。



代表取締役社長：三田 勇太郎
資本金：450百万円

「6つの責任」に基づき グループ全体でCSRを推進しています。

広く社会の皆さまから信頼される存在であり続けるために。ニチレイグループが掲げる「6つの責任」は、ステークホルダーの皆さまに対する私たちのお約束であり、あらゆるCSR活動の基本方針です。

ニチレイグループ6つの責任

新たな顧客価値の創造

新たな商品やサービスを創り出し、生活者の課題解決をする

働きがいの向上

従業員の働きがいを高める

コンプライアンスの徹底

法律や規制を守り、倫理性を高める

コーポレートガバナンスの確立

透明で迅速な経営を行う

環境への配慮

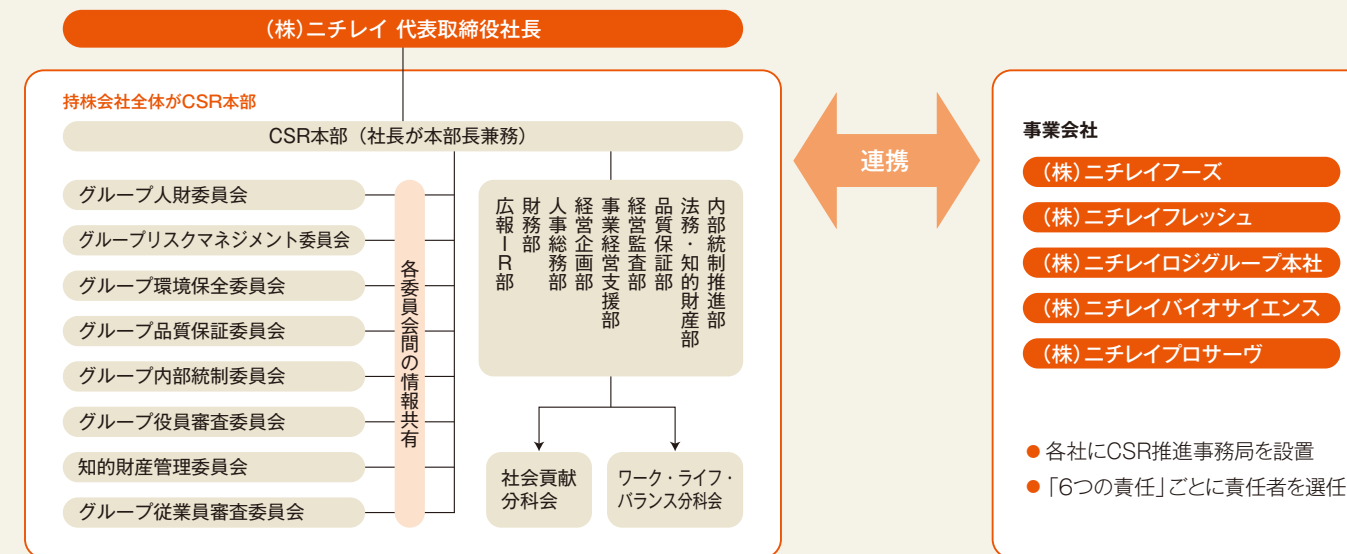
地球環境の負荷を低減する

ニチレイらしい社会貢献の推進

「食」「健康」「スポーツ」をキーワードとした従業員参加型の社会貢献の推進

CSR推進体制

CSR推進体制



CSR活動の歩み

ニチレイにとってのCSR元年	ニチレイのCSRを定義・表明	グループ全体でCSRを推進
2004年	2005年	2006年
6月 ●「CSRプロジェクト」を発足	1月 ●ニチレイグループのブランドステートメントを定義 4月 ●持株会社体制に移行 ●ニチレイグループ「6つの責任」を策定 6月 ●「環境報告書」を「社会環境報告書」に改め発行	4月 ●持株会社にCSR本部、各事業会社にてCSR推進事務局を新設 ●WLB(ワーク・ライフ・バランス)分科会、社会貢献分科会を新たに組織
2007年	2008年	
4月 ●WLB・社会貢献に関する活動方針を策定	3月 ●ニチレイフーズ、独自の推進体制(社会貢献プロジェクト・食育プロジェクト・環境プロジェクト)を構築 12月 ●グループ環境方針を改訂	



海外素材調達における安全・安心

安全・安心な食品を安定的にお届けするために、信頼できるパートナーとのグローバルな調達ネットワークを確立し徹底した品質管理体制を構築しています。

P 素材を調達する際には、生産者が見え、その生産工程における品質管理の仕組みが明らかになっているものの調達に努めています。また、取引先との協働による品質管理システムの強化、管理状況の監査や素材・加工製品の検査を通じて管理レベルの向上を図り、安全・安心な商品をお届けしてまいります。

D 例えば、ニチレイフーズが使用する中国産冷凍野菜の原料やニチレイフレッシュの調達するこだわり素材は、すべてパートナーである生産者により、ニチレイが定めた工程管理に基づき生産されています。

C 管理システムが徹底され、正常に運用されていることを確認するため、産地訪問による管理状況監査や農薬・動植物医薬品などの残留検査を実施しています。

A 監査や検査の結果は、原料担当者などの関係者にフィードバックされ、管理状況、課題、問題点を共有化し改善につなげています。

今後ともさらなる管理レベルの向上とともに、故意の異物混入などに対する「フードディフェンス」の視点での取り組みを進めてまいります。

中国産冷凍野菜の品質管理

▶ 栽培段階の管理体制

中国産冷凍野菜に使用する原料は、生産工場の自営農場または契約農場で栽培されています。栽培管理の確認・トレーサが困難な一般市場からは、調達していません。

農場は、環境、灌漑用水、土壌などの諸条件を定めた統一栽培管理基準に基づいて選定。そのうえで、生産工場の原料生産部署に所属するフィールドマン（農場監視員）が、定期的に各農場を巡回し、栽培作業、農薬散布、収穫作業などの管理・指導を行っています。各作業の内容は肥培管理表に記録され、生産工場でチェックした後保管し、必要時には確認できる

ようになっています。

また、栽培管理体制が徹底され、正常に機能しているかを確認するため、定期的に監査を実施。(株)ニチレイフーズ中国室(8名)の専門スタッフが、農場および管理資料をチェックし、管理体制の徹底化を図っています。さらに、各生産工場の原料担当部署の責任者を集め、この結果をフィードバックするとともに、改善策を協議・実行しています。



ほうれん草の収穫の様子

▶ 農薬の管理体制

農薬については、選定、購入、保管、使用までを厳格に管理しています。

まずは生産工場が、栽培シーズンごと、作物ごとに、日本の農薬使用基準を参考に使用農薬リストを作成。(株)ニチレイフーズ中国室および品質保証部が、各農薬の残留基準値、希釈倍率、使用量、使用時期などを詳しくチェックします。そのうえで、あらかじめ指定されたメーカーと供給元から、生産工場が農薬を購入。購入時に業者から成分証明を取得するとともに、年に1回、第三者分析機関で成分分析を行っています。

その後は施錠できる専用倉庫で保管し、出入庫の履歴を管理表に記録のうえ、定期的に在庫チェックを実施しています。

農薬の散布は、あらかじめ定められた手順に基づいて行うとともに、薬液の希釈時・散布時にはフィールドマンが立ち会って正しい使用方法を指導・監視しています。

▶ 残留農薬の検査体制

残留農薬検査は、使用原料の収穫前、加工・凍結後の半製品、輸入時の製品という3段階で行っています。

第1段階の原料検査は、各生産工場の検査室で、収穫ごと農場ごとに実施。さらなるレベルアップのため、日本、現地での集合研修にも力を入れています。

第2段階である半製品の検査は、中国

国内のニチレイが出資している検査機関錦築(煙台)食品研究開発有限公司で、第3段階の製品検査は、輸入時に(株)ニチレイ品質保証部食品安全センターで実施しています。ここで残留農薬が検出された場合、たとえ基準値内の微量な数値であっても、ニチレイフーズのガイドラインに基づき、直ちに中国駐在員が現地調査を行い、原因の究明、未然防止策の実施を図るシステムを確立しています。



錦築(煙台)食品研究開発有限公司

▶ トレースバックシステムの導入

製品パッケージにコード記号を印字し、原料の栽培から加工までの全工程を追跡管理できる「トレースバックシステム」を構築しています。

原料運搬時には、フィールドマンが原料の数量、汚染防止の処置状況、トラック発車時間などを確認し、送り状を作成。工場では、原料受入担当者が送り状と照合したうえで、トラック番号ごとに原料を標識で管理します。そして加工時には、ラインの各工程でトレースコード標識を設置。工場に到着した順に原料を加工し、産地が違う原料は区分しています。

これにより、万が一、問題が発生した場合でも、製品のコード記号から、工場が保管している管理記録類の追跡調査が可能となり、原因の究明、問題の拡散防止・未然防止を図ることができます。

▶ 土壌改良への取り組み

通常業務における栽培管理・農薬管理・トレースバックシステム管理の徹底に加えて、野菜栽培事業のさらなる取り組みとして、中長期的な視点での土壌改良を進めています。

土壌改良によって土質が軟らかくなると、耕作しやすくなるだけでなく、種をまいた後も発芽がそろい、水がたまりにくく、根に良好な生育環境が形成されるため、作物の健全な生長を促します。このような作物は病気にも強いいため、農薬の使用量も抑えることができます。

さらに環境にやさしく、おいしい冷凍野菜作りを目指して、これからも現地生産工場との強い協調の下、地道な取り組みを続けていきます。

冷凍いんげんからの殺虫剤検出について

2008年10月、ニチレイフーズが輸入した冷凍いんげんを食べたお客様が健康被害に遭われ、当該品から残留農薬基準をはるかに上回るジクロロボスが検出されました。多大なご心配をおかけしたことをお詫びするとともに、事故の経緯についてご報告いたします。

第一報を受けて、ニチレイフーズは直ちに調査を開始。トレースバックシステムから該当商品の履歴を確認しました。該当のいんげんは、中国黒龍江省で収穫され、北大荒北緑食品有限公司で半製品に加工した後、煙台北海食品有限公司で製品として包装、山東省煙台港から輸出されました。生産・流通の各工程における検査結果に問題

はなく、農場や工場での当該殺虫剤の使用・保管はありませんでした。回収品からも殺虫剤等の検出はされず、警視庁の捜査で当該品の袋に穴が空いていたことなどから、故意の混入の可能性が高いと見られています。

ニチレイフーズでは、信頼できる現地企業とのパートナーシップに基づき、厳正な品質管理体制を確立しています。今後ともさらなる品質管理の向上とともに、故意の異物混入などに対する「フードディフェンス」の視点から、監視カメラの運用強化や入場制限規制の厳格化など、一層の努力を重ねてまいります。



CO2削減への取り組み

自然の恵みである食を扱う企業グループとして、事業活動のあらゆる場面でCO2削減に取り組んでいます。

P 気候変動の影響を大きく受ける“食”に係わる企業として、サプライチェーン全体、さらにはお客様や従業員の皆さまの活動に係わるCO2排出量の削減に取り組んでいます。

※目標についてはWEB参照

D 食品工場や物流センターにおける省エネ活動、共同配送やモーダルシフトなどの物流効率化、CO2削減につながる商品の提供、ハイブリッド車の導入、グリーン電力の活用などに取り組んでいます。

C 洞爺湖サミットで2050年にはCO2排出量を世界全体で半減させるという目標が掲げられ、改正省エネ法の施行など企業活動に対する要求が強まる中、現状の活動の継続だけではこれらへの対応が難しくなってきています。

A 今後策定される日本の2020年に向けた中期目標を踏まえ、事業会社ごとに取り組みを継続・強化していきます。また、従業員一人ひとりの意識向上や家庭での省エネ活動の取り組みも推進していきます。

食品工場におけるCO2削減

ニチレイフーズでは1999年以来、国内の各工場で順次ISO14001を取得し、統合的なマネジメントシステムを構築して、さまざまな環境課題に取り組んできました。

地球温暖化防止については、
1. できるだけ使わない(省エネ)
2. 再利用する(排熱利用・廃食油利用)
3. 自然の力(自然エネルギー・緑化)
の3点を柱に挙げています。

製品1tあたりのCO2排出量(原単位)を指標として環境負荷の把握、目標の設定を行い、新しい技術も積極的に導入しながら各種施策を推進しています。

今後は、従来の食品工場からの直接的

な温暖化ガスの排出削減活動に加え、商品のライフサイクル全般にわたる視点に立ち、原料調達から消費にいたるまでの全工程におけるCO2排出削減を目指し、取り組みの幅を広げていきます。

1. できるだけ使わない(省エネ)

食品工場では、まずは生産工程におけるエネルギーを「できるだけ使わない」ことを目指し、生産時間に合わせた設備の運転管理や、エネルギーロスを発生させないメンテナンスを実施するなど、省エネに取り組んでいます。

一方で、安全・安心な商品を生産するためには、加熱や冷凍工程での徹底した温度管理や、検査設備の充実が欠かせません。こうした必要不可欠なエネルギー消費をできるだけ抑えるため、高効率設備への更新や、LED照明など新技術を積

極的に取り入れています。

また、食品工場だけでなく、事務所の昼休み消灯、営業車のハイブリッド車への切り替えなど、オフィスでの省エネにも努めています。



船橋工場LED照明に照らされたNマーク

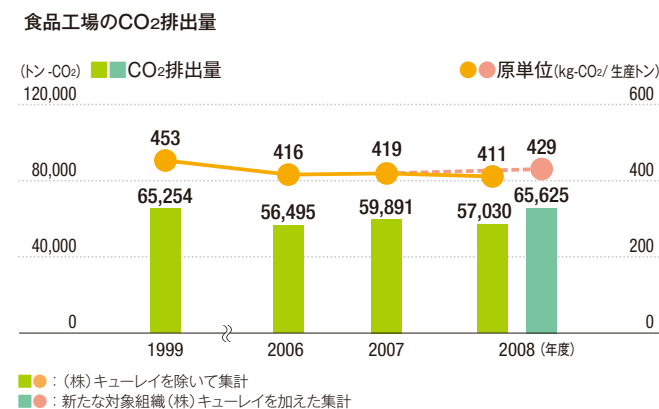
2. 再利用する(排熱利用・廃食油利用)

食品工場では「できるだけ熱を逃がさない」ために、冷蔵庫や温水配管に保温・防熱を施しています。それでも発生する排熱については、エネルギーとして積極的に再利用しています。

例えば、「蒸し」工程に使われるボイラーの燃焼排気に、エコマイザーという熱回収装置を取り付けることによって、供給水を予備加熱することができ



エコマイザー



また、フライ商品の「揚げ」工程で使用された植物油の廃油を燃料として再利用することで、化石燃料の削減を図ることができました。

このシステムは、現在、(株)ニチレイフーズ船橋工場ならびに(株)中冷で稼働しており、CO2排出削減効果は、2工場合計で約660トンの見込みです。



廃食用油を処理し燃料を混合する装置

3. 自然の力(自然エネルギー・緑化)

ニチレイフーズで使用しているエネルギーは電力が約60%、重油などの化石燃

料が約40%ですが、自然エネルギーの利用をさまざまな形でを行っています。

(株)ニチレイフーズ船橋工場・白石工場・長崎工場では、給気設備に気化熱を利用した冷却装置を設置。船橋工場と(株)ニチレイアイスでは、太陽光発電設備を導入しています。

また、自然の緑の力を保つために、緑化活動を推進しています。各事業所で緑地の整備に取り組むほか、近隣の自然保護活動にも積極的に参加しています。



川の清掃の様子

TOPICS 船橋工場が「食品産業CO2削減大賞」農林水産省総合食料局長賞受賞

2009年3月、(株)ニチレイフーズ船橋工場が、「食品産業CO2削減大賞」において農林水産省総合食料局長賞を受賞しました。食品産業CO2削減大賞は、農林水産省の補助事業として(株)日本総合研究所が主催し、食品企業での温室効果ガス削減の取り組みを広く募集し、削減に努力している企業を表彰するものです。今回の受賞では、廃棄物バイオマスである廃食油をボイラー燃料として活用するなど、船橋工場におけるCO2排出削減の取り組みが高く評価されました。



表彰式の様子

(株)ニチレイフーズ 船橋工場
技術グループ グループリーター
加藤 達志

voice

環 境目標であるCO2削減を目指して、2008年度は計画的に省エネ設備・自然エネルギー設備の導入を実施しました。

2007年度設置した廃食油燃料化設備とあわせ、大きな効果をあげました。これからも日本を代表する冷凍食品工場として、お客様にも従業員にも地球にも喜ばれる工場づくりを目指していきたいと思っています。



物流におけるCO₂削減

▶「エコシップ・モーダルシフト」の導入

ニチレイロジグループの(株)ロジスティクス・プランナーと(株)ニチレイフーズは、九州(鳥栖)～関東(船橋)間の冷凍食品物流において、フェリー会社のオーシャントランス(株)と共同でエコロジー(環境)とエコノミー(経済)の2つのエコを両立した「エコシップ・モーダルシフト」を導入しました。

従来の同ルートにおける冷凍食品輸送は、冷凍トラックが主流でした。また食品工場が多くある九州地区から巨大消費



エコシップに乗り込むトレーラー

「エコシップ・モーダルシフト」



地である関東へ搬出される往路の物量が多く、復路である関東からの物量は少ないという荷動きの偏りが生じていました(九州発2に対して関東発1程度)。そのため荷主であるニチレイフーズは空車リスクが反映された運賃を負担していました。またその他のお客様との組合せでも埋めきれない空車スペースが、余分なCO₂を排出していました。

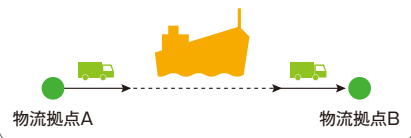
新しい輸送システムは、海上輸送を中心とした環境にやさしい物流ですが、コンテナ部分を切り離すことができるトレーラーとフェリーを組合せたことや、フェリー会社と直接提携して連携効率を高めたことから次のような特徴があります。

- ① コンテナの空回送が発生する場合、船腹に余裕があるタイミングを捉えて移動させることで余分なCO₂排出を削減
 - ② フェリー会社所有のコンテナを使用するため空回送費用を軽減
 - ③ 海上輸送中は、コンテナだけの無人航送のため、ドライバーの拘束時間を短縮
- 2007年度実績では、陸上輸送の場合と比較して年間のCO₂排出量では515トン、率にして20.8%の削減を達成しました。

なお、今回の取り組みにおいてロジスティクス・プランナーとニチレイフーズは、2009年2月4日に国土交通省海事局長より「エコシップ・モーダルシフト」優良事業者として表彰されました。

「エコシップ・モーダルシフト」導入によるメリット

- CO₂と窒素酸化物の排出量を削減
- 輸送コストを削減
- 商品破損が少ない
- 毎日の安全運行を実現
- 運転手の拘束時間短縮
- 交通渋滞・交通騒音の低減



商品におけるCO₂削減

▶ ライフサイクル(LC)-CO₂の把握

LC-CO₂とは、人間の活動が地球温暖化にどれぐらい影響を与えるかを、CO₂排出量に換算して表した指標です。

食品であれば、原料調達から生産、流通、使用、廃棄にいたるまでのエネルギー使用量などをCO₂に換算し、商品のライフサイクルにわたって排出されるCO₂量を把握します。これらを見える化することにより、事業者の温暖化抑止への取り組みを消費者にアピールし、環境に配慮した購買行動を促す効果があることから、温暖化防止対策のひとつとして期待されています。

日本では現在、この取り組みの制度化・普及を目指して、CO₂排出量の算定方法や表示・評価に関するルールの検討が進められています。

ニチレイフーズでも、商品の改良、工程の改善によるCO₂排出削減や制度化対応準備として、一部主力商品で、試行的にLC-CO₂の算出に取り組んでいます。今後、取り組む商品カテゴリーを増やしていきます。

(株)ロジスティクス・プランナー
営業部営業グループ グループリーダー
中山 英臣

voice

地球環境にやさしい物流であることに加えて、フェリー会社と直接提携することで復路のリスクを負担することなく片道の輸送が可能となりましたので、主要都市間の輸送は、今後もこのような海上輸送を中心とした「エコシップ・モーダルシフト」の進展が予想されます。



▶ 包装資材の軽量化・小型化

ニチレイフーズでは、CO₂排出削減の一環として、包装資材の軽量化・小型化によるプラスチックの削減や、環境負荷の少ない材質の導入を、商品の品質の保持に細心の注意を払いながら進めています。

2009年3月にリニューアルした、ニチレイフーズを代表する商品のひとつ「焼おにぎり」では、品質の向上とともに従来使用していたトレイを廃止しました。その結果、包材重量として10個入りで約45%、8個入りで約25%削減を達成し、今年度は約95トンの石油由来のプラスチック原料の削減が期待できます。体積比でも10個入りで約50%、8個入りで約40%の減容化が実現でき、配送の効率化とともに、お店やご家庭における冷凍庫への収納性にも配慮しました。



これまでに「お弁当にGood!」シリーズや「今川焼き」などで実施した、包装資材の軽量化・小型化は、2008年度には年間約160トンのプラスチック使用量削減につながりました。



ミニハンバーグ

従来のトレイ(左)
軽量化したトレイ(右)

また、「蔵王山麓グラタン・ドリア」で従来のプラスチック容器から紙容器に変更しました。

これからも次世代のために環境にやさしい包装設計を商品に反映させていきます。



紙トレイ

オフィスにおけるCO₂削減

▶ グリーン電力によるオフセット

工場や冷蔵倉庫などでの太陽光発電設備の導入に加え、「グリーン電力証書」*の購入を行っています。ニチレイでは、2007年1月より年間100万kWhのバイオマス発電を委託し、本CSRレポートの印刷・製本にかかる電力(614kWh)相当分をこの一部でまかなっています。

2008年度は新たに、ニチレイフレッシュが「こだわりセミナー」の会場で使用した電力(約4,000kWh)相当分についてバイオマス発電によるグリーン電力証書を購入しました。

「こだわりセミナー」はお客様とともに「食」について考える場として、また資源保護や環境との共生に配慮した「こだわり素材」の開発に向けた取り組みを紹介する場として毎年開催しています。2008年度は「生命と環境との共生～生態系と地球温暖化について～」をテーマに11月21日に開催し、会場ではグリーン電力の取り組みが次のように紹介されました。



今回の「ニチレイフレッシュこだわりセミナー2008」では、バイオマス発電所からの4,000kWhの電力を利用して、セミナー会場で使用する電力をグリーン電力で補っています。

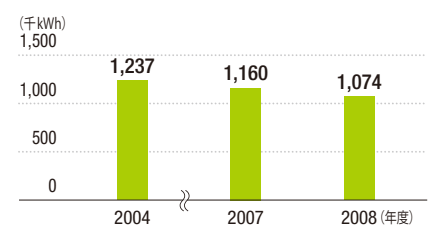
*グリーン電力証書システム：自然エネルギーによって発電された電力がもつCO₂排出削減などの環境付加価値を「グリーン電力証書」という形で具体化し取引することで、発電所から遠い場所でも自然エネルギーによる電力を使用(オフセット)したとみなす仕組み。

▶ オフィスの電力を見える化

ニチレイバイオサイエンスは、エネルギー使用量を可視化する一つ的手段として、電力使用量を測定するシステムを2008年1月より導入しました。この結果、開発センター内の使用量をエリア別に把握できるようになりました。

5月には南向きの窓に遮光フィルムを貼り付け、順次、個別空調機を購入し、8月には全館空調を停止し、完全に個別空調のみに切り替えたところ、総電力使用量は10%以上、削減されました。このように省エネ活動の成果が具体的な数値で把握可能となり、目標の設定と結果の評価を明確にしたり、成果を共有するツールとして役立っています。電気の削減効果が見えるようになり、一連のエコロジー委員会の活動成果が従業員にも知られるようになりました。11月の省エネ意識調査でも94%の従業員から省エネ提案の賛同が得られるようになりました。

開発センターの電力使用量



(株)ニチレイバイオサイエンス
品質保証部 品質保証・安全管理チーム
マネジャー
松島 博史

voice

省エネ対策には施設の電力使用量を把握することが不可欠と考え、導入を推進しました。これまで「仮定値」としていた電力使用量は「実測値」として把握でき、事実に基づく判断が可能となりました。この結果、省エネ効果の判定が容易になり、従業員が省エネ活動に参画する際にも、理解や納得感が得られています。

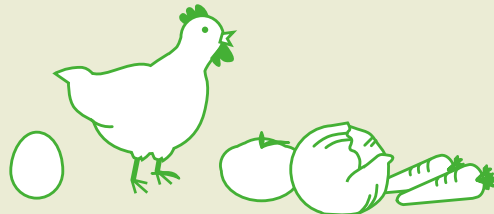


事業活動と環境負荷

ニチレイグループは、事業活動に関わる環境負荷を継続的に把握し、環境保全活動に活かしています。
また、集計範囲を拡大し、より広くデータを集めることで、活動の幅を広げていきます。

INPUT

原材料 129千トン



原料 115 千トン
包装資材 14 千トン

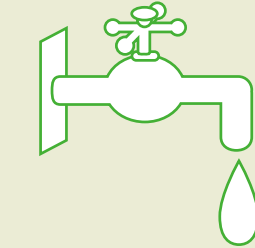
エネルギー ギガ 4,899千GJ^{*1}



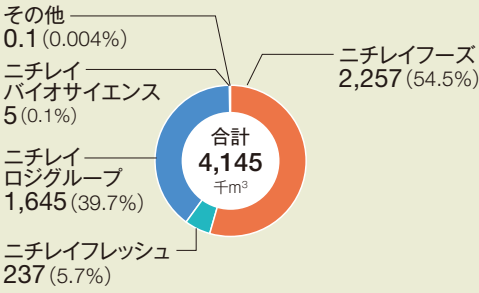
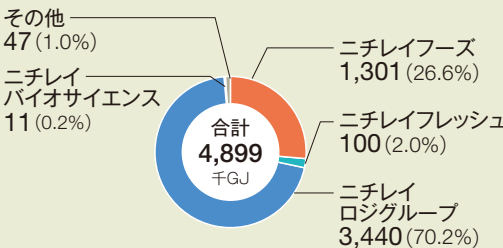
購入電力 442,846 千kWh
重油 5,712 kℓ
灯油 1,861 kℓ
都市ガス 2,609 千m³
LPG 2,512 トン
ガソリン(社有車) 737 kℓ
軽油(社有車) 1,326 kℓ
太陽光発電 274 千kWh

^{*1} 1 J(ジュール)はエネルギーの単位で、4.2Jが約 1 calに相当する

水 4,145千m³



上水 1,261 千m³
工業用水 625 千m³
地下水(井水) 2,259 千m³

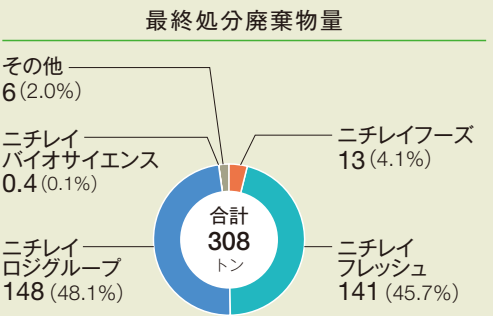
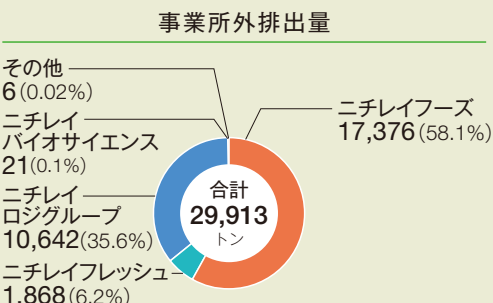


OUTPUT

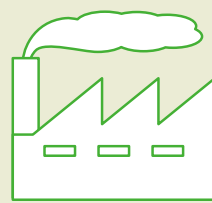
廃棄物

事業所外排出量 29,913 トン
リサイクル量 29,605 トン
最終処分廃棄物量^{*2} 308 トン

^{*2} 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋め立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

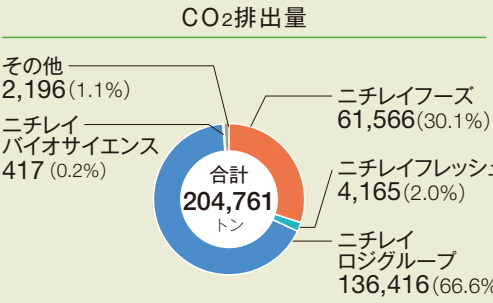


大気系

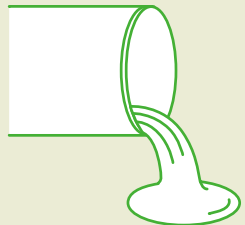


CO₂^{*3} 204,761 トン-CO₂
NOx 53 トン
SOx 33 トン

^{*3} 購入電力量のCO₂排出量への換算係数は 0.378kg-CO₂/kWhを使用
地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別係数を使用した場合、CO₂排出総量は226,654トン-CO₂

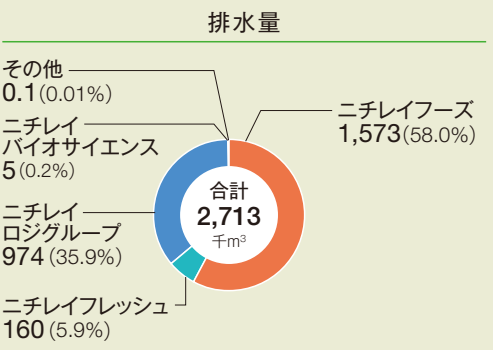


水系



排水 2,713 千m³
下水道 1,284 千m³
公共水域(河川など) 1,429 千m³
排水負荷量
BOD^{*4} 66 トン
COD^{*4} 5 トン

^{*4} 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出



2008年度実績集計対象事業所 下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所が複数ある場合は()内に数を記載

- ◆ニチレイフーズ
(株)ニチレイフーズ(7)、千葉畜産工業(株)、(株)ニチレイ・アイス(2)、(株)中冷、(株)キューレイ
- ◆ニチレイフレッシュ
(株)まるいち加工(3)、横浜南プロセスセンター、川越プロセスセンター
- ◆ニチレイロジグループ
(株)ロジスティクス・ネットワーク(28)、(株)NKトランス(3)、(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道(5)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東北(3)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関東(8)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東海(11)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関西(15)、(株)ニチレイ・ロジスティクス中国(8)、(株)ニチレイ・ロジスティクス四国(7)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州(14)、(株)キョクレイ(4)

- ◆ニチレイバイオサイエンス
開発センター
- ◆その他
(株)ニチレイガーデン
- *エネルギー使用量、CO₂排出量については、上記以外の本社や支店などのオフィスの活動によるものを含む。
- *海外事業所は含まない。

四捨五入の影響により、実際の合計値と異なったり、100%とならない場合があります。



働きがいの向上

従業員一人ひとりの行動の結果が、お客様満足となり、
会社の成長につながるの考えから、
従業員が働きがいのある職場づくりを進めています。

P 「企業の成長は従業員一人ひとりの成長の総和」であるとの確信のもと、第一線の現場にいる従業員のモチベーションの向上と活力ある組織の実現を目指し、従業員満足度調査の結果に基づく改善策を計画しています。

D 会社として取り組むべき案件と職場単位で問題解決すべき案件、優先順位等を勘案した上で、各社・各職場の実態にあわせた改善策を計画的に実行しています。

C 各社の改善策の計画・実行の進捗は、各社社長・人事担当者をメンバーとする「グループ人財委員会」（年3回開催）を通じてモニタリングしています。また、社員はもとより契約社員、パート・アルバイト、派遣社員をも対象とした「従業員満足度調査」を毎年実施しています。

A 「従業員満足度調査」の結果を経営層が真摯に受け止め、従業員に対して迅速に結果のフィードバックを行うとともに、結果の総括を行い、次年度の予算や運営施策に反映させています。

従業員満足度調査 (ES調査)

▶ 働きがいの向上

「第一線の現場で日々お客様と接する従業員が、仕事を通じて働きがいを感じていなければ、お客様の満足度を高めることはできない」という考え方に基づき、ニチレイグループでは、「働きがいの向上」「従業員重視の職場風土づくり」に積極的に取り組んでいます。

また、従業員の満足度を測る指標として定期的に「従業員満足度調査」を実施しています。

なお、「働きがい」の定義としてはGPTW社*が提唱する以下の定義を参考としています。

① 従業員が会社や経営者、管理者を信頼

し、自分の仕事に誇りを持ち、一緒に働いている人たちと連帯感が持てること

② 「働きがい」を実現する5つの要素：「信用」、「尊敬」、「公正」、「誇り」、「連帯感」

* GPTW社：米国の調査研究機関であるGREAT PLACE TO WORK INSTITUTE。米経済誌「フォーチュン」が毎年掲載する「最も働きがいのある会社ベスト100」のデータを提供している。参加企業は世界29カ国で、3,000社にのぼり、ベスト100に選ばれていることが一流企業の証と言われている。

▶ 従業員満足度調査の実施

ニチレイグループでは、社員をはじめ契約社員、パート・アルバイト、派遣社員といった職場で働くすべての人々を対象に「従業員満足度調査」を毎年継続して実施しています。

経営層は、数値だけでなく、「従業員の生の声」である記述回答にも目を通したうえで調査結果を分析し、課題と「打ち手（改善策）」を従業員にフィードバックしています。一方、従業員は経営層の言

▶ 車座集会

従業員満足度調査であがった職場内コミュニケーションの不足という課題を受け、ニチレイフレッシュでは、2007年度より車座集会を実施しています。車座集会では、全国各地の事業所・関係会社で、社長をはじめとする経営トップ自ら、ニチレイフレッシュの現状・課題と今後の戦略について直接対話を交わしています。

2008年度は全国の事業所で上半期21回、下半期19回の計40回開催し、全従業員が参加しました。下半期の開催では昼食をとりながら経営トップと従業員が懇談し、なごやかな雰囲気の中コミュニケーションを深めることができました。今後もこうした活動を通じ、社内コミュニケーションの活性化を図っていきます。

▶ コーチング研修

ニチレイロジグループでは、2007～2008年度に全国でコーチング研修を開催し、全役職者465名が受講しました。



コーチング研修

2005年度より実施している従業員満足度調査の結果を受け、上司と部下との日常のコミュニケーションを深めるために、役職者のコミュニケーション能力の向上が急務と考え、全社的な研修を実施したものです。

コーチング研修は、マネジメントクラスの役職者が、聴く・話すというコミュニケーションの基本スキルとともに、部下を育てるというマインドを学ぶことを目的に掲げ、全国で24回開催しました。事前アンケートから集合研修、フォローも含め約5ヵ月間にわたる長期のプログラムとなりましたが、受講者は真剣に取り組み、自身の行動を振り返るとともに、新たな気づきを得るきっかけとなりました。

従業員満足がお客様満足につながり、会社の業績向上、個人の働きがい向上という良い循環が生まれることを目指して、今後も継続して取り組みを進めていきます。

2008年度調査の概要

●実施時期

2008年10月（ニチレイフーズは2008年4月）

●調査対象

ニチレイグループ各社の社員、契約社員、パート・アルバイト、派遣社員

●主な調査内容

①仕事満足度、②職場満足度、③上司満足度、④労働条件満足度、⑤組織・人事満足度、⑥自社経営満足度、⑦グループ経営満足度、⑧総合満足度（①から⑦を総合的に勘案）8要素上記に加え、2007年度調査結果の説明・報告、調査後の取り組みの有無、改善成果の実感に対する従業員の意見・考えについても調査しています。

●2009年度の実施計画

2008年度の従業員満足度調査の結果を受け、2009年度は①人間力の向上 ②組織内コミュニケーションの活性化 ③組織力を最大限発揮するために必要な能力の活性化の3つの視点から、リーダー層を中心としたチームワーク力を高めるための教育訓練を各事業会社で実施していきます。ニチレイフレッシュでは役員・役職者全員を対象とした可視化経営導入研修を、ニチレイプロサーヴでは昨年度実施したコーチング研修とコミュニケーション研修をより浸透させるため、リーダー力強化プログラム研修及びコミュニケーション研修の継続実施、部長層がコーチングをより深く認識するための機会設定を予定しています。また、ニチレイフーズでは地域限定勤務や再雇用等の人事制度改正を、ニチレイロジグループでは労使共同で新人事制度の構築を検討しています。

(株)ニチレイロジグループ本社
経営企画部 マネジャー
松村 和典

voice

如 何にしてニチレイロジグループの実状に合ったプログラムにするかが企画段階でのポイント。また、今回の研修は規模的にも非常に大きく、会場手配や日程調整等ニチレイロジグループ各社の皆さまの全面的な協力があってこそ実現できました。しかし、この取り組みはスタートしたばかり。さらにフォローを繰り返し、しっかりと職場に定着させていくことが今後の課題です。



ワーク・ライフ・バランス 分科会の活動

▶ ワーク・ライフ・バランスの推進

仕事に対する価値観やライフスタイルが多様化する中、仕事と生活のバランス（WLB：ワーク・ライフ・バランス）を重視する人が増えてきています。ニチレイグループでは、2005年の分社化以降、グループ横断的にワーク・ライフ・バランスを推進するため、各事業会社のWLB担当者と労働組合をメンバーにWLB分科会を立ち上げ、定期的に意見交換を行っています。

WLB分科会では、育児・介護・看護に係わる就業規程の見直し、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定・達成支援や「くるみんマーク（次世代認定マーク）」の取得支援などを行っています。2007年度には、ニチレイ、ニチレイフーズ、ニチレイプロサーヴの3社が「くるみんマーク」の認定を受けました。

また、WLBデータベースの開発、育児休業者支援サイトの活用、女性社員を対象とした異業種交流研修の開催など、グループ横断で取り組んでいる施策の共有・検

討にも力を入れています。

これまでの実績としては、「ニチレイグループWLB基本方針」を2006年に策定したほか、2007年度は「次世代育成ガイドブック」を作成しました。出産・育児を控えた従業員がニチレイグループの出産・育児に関わる制度を正しく理解し、安心して休暇・休業に入ることができるように、育児休業者が利用できる制度やサービスを時系列でまとめたほか、申請

ニチレイグループWLB基本方針

わたしたちニチレイグループは、社員ひとりひとりの「働きがいの向上」のために、充実した仕事と個人の生活を高いレベルで調和させる“ワーク・ライフ・バランス”の実践に取り組みます。わたしたちは、公正・公平な処遇と個人の自律したキャリア形成を求め、ライフステージに応じた多様な働き方を推進します。わたしたちは、多様な価値観を尊重し、「高度な専門性によって付加価値を生み出し続けるプロフェッショナル集団」であるために、仕事と個人の生活において常にかがやきをもった人財であり続けることを目指します。

方法や申請書類についてもわかりやすく解説しています。

2008年度は、時間外労働の削減を目指し、各社の取り組みを共有し、有効な施策の横展開を図りました。

▶ 異業種交流研修実施

ニチレイグループでは女性活躍支援の一環として文具メーカーや住宅設備機器メーカーなどの異業種他社と合同で開催している「異業種交流研修」に2003年度から女性社員を派遣しています。

2008年度は、新たに加わった「見た目改造+伝わる話法でプレゼンスキル向上セミナー」を含め「ロジカルコミュニケーション研修」「セルフエスティーム研修」の3つの研修に計8名が参加しました。

7社が参加した「見た目改造+伝わる話法でプレゼンスキル向上セミナー」では、顧客、取引先、あるいはパートナーに対し、訪問やプレゼンの際に相手を惹きつけるために必要な「見た目」（外面）と「伝わる話法」（内面）の両方からプレゼンスキルを向上させることを学びました。

異業種他社の女性社員と交流を深める機会としても有効に活用しています。

ダイバーシティ推進への取り組み

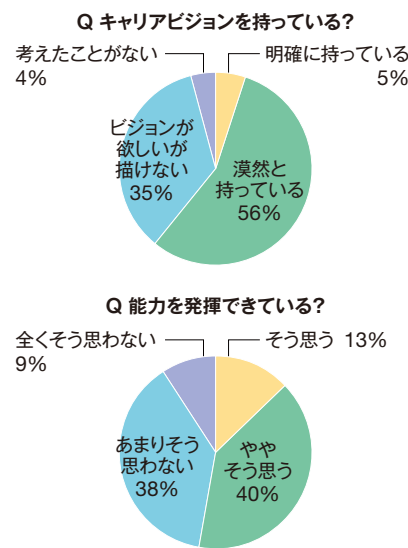
▶ 女性社員アンケート実施

ニチレイフーズでは、ダイバーシティ推進を目的にNPO法人 J-Win*（ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク）に参加する女性社員が中心となり、2008年3月、女性社員201名を対象としたアンケートを実施しました。（回収率は66.2%）アンケートの結果、約80%が「働き続けたい」と回答するなど、総じて仕事への意欲が高いことがわかりました。一方で、キャリアビジョンを描けていない（約40%）、今の自分の能力が発揮できていない（約50%）のほか、役職者になりたいと思っても実際には登用試験を受けていないなど、現状と意識のギャップが見えてきました。

これらの結果を踏まえ、①社員のプロフェッショナル化、②キャリア自立・キャリア継続、③多様性の理解と共有を目的に、今後は各種活動を展開していきます。セミナーや座談会、キャリア研修などの企画・開催を通じて、ダイバーシティの実現を目指していきます。

* J-Win：多様なキャリアを持つ女性社員および幹部候補社員の相互交流、相互研鑽の場としてダイバーシティの推進を目指した各種活動を展開しています。

アンケート結果



▶ 女性向けキャリアセミナー実施

2008年12月4日、(株)ニチレイフーズ本社で、女性社員有志によるキャリアセミナーを開催し、約100名の女性社員が参加しました。セミナーでは、3月に実施した女性社員アンケートの結果紹介、浦野会長による基調講演「自己変革推進講座」、パネルディスカッション「多様な働き方・経験談」などを行い、好評を得ました。参加者の声を受けて、今後は男性社員も含めたキャリアセミナーの開催や、分科会形式での交流の場を設けていく予定です。



女性向けキャリアセミナーの様子

▶ 多様な人財の活用

ニチレイグループは、個人の属性にとらわれず、適性や能力に応じて多様な人財の活用を進めています。

障がい者雇用については、2007年2

月に、特例子会社である(株)ニチレイウラを設立しました。同社は、ニチレイグループ各事業会社の食品工場や物流センターでの事務所環境の整備のほか、東京事務所を開設し、グループの本社機能が集中する築地地区での不要書類の回収業務および郵便物集配業務を開始しました。2008年度の障がい者雇用率は、2.13%となっています。今後は、各事業会社において障がい者の雇用機会創出と職域拡大に継続して取り組んでいきます。

障がい者雇用率

2006年度	1.93%
2007年度	2.15%
2008年度	2.13%

退職後の就業機会提供にも早くから取り組み、2002年には「シニアスタッフ制度」を設置。2006年4月の改正高年齢者雇用安定法の施行に伴い、同制度を一部改定し「新シニアスタッフ制度」に移行しています。2008年度は、12名のシニアスタッフがニチレイグループで働いています。

また、グループで外国人雇用にも取り組んでいます。

●選ばれつづける仕事表彰

ニチレイロジグループは、常にお客様に選ばれつづける存在でありたいという思いから、『選ばれつづける仕事賞』を創設しました。これは、経営方針である「働きがいのある職場づくり」「お客様満足度向上」に貢献した従業員（社員、派遣社員、パート）を賞賛し、さらなるモチベーションアップを促進することを目的に導入したものです。

2007年度下期～2008年度上期を対象とした第一回の表彰では、同僚やお客様の推薦を受け、国内事業会社より10名、海外事業会社より4名が選ばれました。主な受賞理由は以下の通りです。

- 細やかなお客様対応による評価
- 職場でのコミュニケーション活性化、事故防止に貢献
- 現場での作業品質の改善に貢献
- 清掃活動などの「5S運動」への率先した取り組み

2008年11月27日には、ニチレイロジグループ本社において表彰式が開催され、社長より表彰状の授与が行われました。今後も働きがいのある職場づくり、一層のお客様満足度の向上を啓発する取り組みとして定着させ、ブランドスローガンとして掲げる『選ばれつづける仕事。』を実践してまいります。

●横浜ノーマライゼーション企業グランプリ受賞

(株)ニチレイフレッシュの関連企業である(株)ニチレイティーピーセンターが、2008年度の「ハマライゼーション企業」として横浜市より表彰されました。ハマライゼーションとは「ヨコハマ・ノーマライゼーション」の略称で、障がい者の方を雇用し、働きやすい職場環境を作る取り組みや、働き続けることができる工夫などを積極的に行っている企業（事業者）を、横浜市が毎年選定、表彰するものです。今回は「写真や絵による作業工程の掲示や、障がい者だけでなく外国人にも働きやすい職場環境（ノーマライゼーション）、能力に応じて職務内容がステップアップできるプログラム設定など」が評価されての受賞となりました。



2008年度ハマライゼーション企業表彰式



(株)ニチレイフーズ
商品本部 商品二部
商品グループ 農産商品チーム
楊 瑞紅

農

産商品チームは世界中から農産品を調達しています。特に、中国から毎年大量の冷凍野菜を仕入れています。国産以外の野菜に不振が続いている中、今後ともより安全・安心な野菜の調達ができるように、産地の確認や、工場の確認など中国語を活かした調達の仕事に邁進します。



(株)ニチレイフレッシュ
企画管理部 品質保証グループ
侯 毅然

食

品表示のチェックをはじめ、品質保証に関わる業務を担当しています。配属前は、不自由なく日常会話をしていた私ですが、いざ仕事となると、意味の分からない専門用語が飛びかい、聞き取るのにかなり苦労しました。しかしながら、いまではずいぶんと理解が進み、最近では「品質保証」という言葉の重みや奥深さを感じつつ、日々楽しく仕事に取り組んでおります。



voice



ニチレイらしい 社会貢献の推進

食と健康に関わる企業として、地球市民の一員として、
企業や団体、地域の方々などさまざまな皆さまと協調しながら
豊かな社会を作るための活動を続けています。

食や物流に関する教育

▶ おおさか食育フェスタ2008

ニチレイフーズは、大阪府が主催した「おおさか食育フェスタ2008」に、「健康おおさか21・食育推進企業団」として他の食品企業18社と共に参画しました。展示ブースでは、温かい本格炒め炒飯とスノードライアイスを使用したユニークな冷凍食品作りを行い、多くの方々に冷



おおさか食育フェスタ2008の様子

凍前後での食品の温度変化と冷凍食品の製造を体験していただきました。

▶ 食育推進全国大会

ニチレイフーズは、2008年6月に行われた第3回食育推進全国大会「ぐんま食育フェスタ2008」に、NPO法人 日本食育士協会と共同で参画しました。ここでは、「味と香りの体験：おいしさはどのように感じるのか？」をテーマに、アセロラドリンクを試飲しながら味覚と嗅覚の相互関係を体感するワークショップ



食育推進全国大会の様子

を展開し、多くの来場者を集めました。

▶ キッズツアー

(株)ニチレイフーズの国内6カ所にある自営工場では、周辺地域の小中学生を対象に「キッズツアー 体験！工場見学」を実施しています。ニチレイフーズの概要説明に始まり、冷凍食品の製造工程を見て学ぶ工場見学のほか、冷蔵倉庫で「冷凍温度」を体感させるなど、体験型の内容になっています。その他、各工場て工夫を凝らした独自のプログラムを実施しています。2008年度は55回のキッズツアーを実施しました。



キッズツアーの様子

▶ 校外学習

(株)ニチレイ・ロジスティクス関西 西大路物流センター、西京物流センターでは、周辺小学校の社会科見学行事「街たんけん」に協力しています。2008年度は小学2年生7名が訪問、約1時間にわたって物流センターの見学や質問を行いました。

また、ポートアイランド物流センターでは、兵庫県教育委員会主導の職場体験週間「トライやるウィーク」に協力し、2008年6月と11月の2回、神戸市内の5中学校から10名の生徒の校外学習を受け入れました。外貨コンテナの荷卸し作業の見学や、金属探知機を使つての体験実習、



西京物流センターの見学の様子

−25℃の冷蔵倉庫体験など、物流センターを身近に感じてもらったほか、輸入貨物の流れについて学んでいただきました。

地域社会に対する 貢献活動

▶ フードバンクへの寄付

(株)ニチレイフーズはNPO法人セカンドハーベストジャパン*によるフードバンク活動に賛同し、日本企業としていち早く名乗りをあげ2005年7月から参画しています。輸入時に外箱が変形した商品など品質に問題のない冷凍食品を無償で提供、ニチレイロジグループの協力により低温輸送でセカンドハーベストジャパンの認定する各施設に直接お届けしています。

この取り組みは、現在では400社の企業が協賛するまでに広がっています。

*「セカンドハーベストジャパン」：日本初のフードバンク。2002年7月に法人格を取得。安全性が保証された食料を、生活困窮者に供給する支援活動を行っている。

▶ ^{いのち}生命の森プロジェクト

インドネシア・タラカン市が実施するマングローブ林拡大プロジェクト(生命の森プロジェクト)は、マングローブ林に生息する動物や環境の保護などを目的としたものです。

ニチレイフレッシュは、10年来タラカン市のバックカーよりえびの買い付けを行っていることから、地域貢献の一環として、また食材調達における持続可能性確保への取り組みとして、このプロジェクトの活動を支援しています。

現在までに植林したマングローブの数は約5万本。インドネシアWWF*・タラカン市・ニチレイフレッシュが共同で設



マングローブ林の自然環境保護を目的とした「生命の森プロジェクト」。生長した「生命の森」

立した基金を通じ、2009年にはその数を約10万本へ拡大する予定です。また、2009年1月に展望台を開設し、セミナーを実施しました。今後もこの土地での植樹を継続する予定です。

*「WWF」：1961年に、絶滅の危機にある野生生物の保護を目的としてスイスで設立され、現在は地球全体の自然環境の保全に幅広く取り組む世界最大の自然保護NGO(非政府組織)。

▶ リングプル収集活動

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道ではリングプル収集活動を行っています。2004年12月から活動を開始し、2009年1月末までの累計は84.7kgになりました。集めたリングプルはボランティア団体「親切会北海道支部」を通じて車いすに交換し、各施設に寄贈しています。

(株)ロジスティクス・ネットワーク 川崎ファズ物流センターでも、現場従業員の声かけによって、リングプルの回収を始めました。

▶ ユネスコ世界寺子屋運動

ニチレイグループは、(社)日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動」に協力しています。世界寺子屋運動は、世界中のすべての人に教育機会を提供する活動で、女性向けの識字教室や子供のための補講クラスのほか、収入向上などの自立支援を行っています。2009年6月には、インドに小学校が3校建設される計画です。

(株)ニチレイブローサーヴ
人事総務サポート部
給与厚生グループ
大堀 由紀子

voice

遠く離れたインドの子どもたちのお役に立つ、そして、その支援業務に携わっていることを誇りに感じています。新しくできる寺子屋は、インドの恵まれない人々の自立につながり、幸せを増やすことになると



思います。私たちニチレイグループの活動が、多くの人々の幸せにつながることに社会的意義を感じています。

コーポレートガバナンスの確立

業務執行・経営監視

持株会社であるニチレイにおいては、取締役の任期を1年とし、10名のうち3名の社外取締役を選任するとともに、毎月1回以上の取締役会を開催することにより、経営の透明性の向上と経営監督機能の強化を図っています。また、両代表取締役は、取締役会への業務執行状況報告とは別に、監査役会に対して定期的に業務執行状況を報告する機会を設けるなど、業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たせる仕組みを構築しています。

各事業会社に大幅な権限委譲を行う一方、事業のモニタリング機能を強化するため、持株会社の組織に事業経営支援部を設置しています。同部は、各事業会社の監査役（非常勤）を兼務するとともに、各事業会社の経営進捗状況等をモニタリングし、その結果を毎月持株会社へ報告するほか、各事業会社に対し経営のサポートも行っています。

また、コーポレートガバナンスを有効に機能させるため、取締役会の諮問機関として「グループ人財委員会」、「グループリスクマネジメント委員会」、「グループ環境保全委員会」、「グループ品質保証委員会」、「グループ内部統制委員会」、「グループ役員審査委員会」を、代表取締役社長の業務執行に資することを目的として「経営会議」、「知的財産管理委員会」、「グループ従業員審査委員会」をそれぞれ設置し、適宜開催しています。

内部統制システム

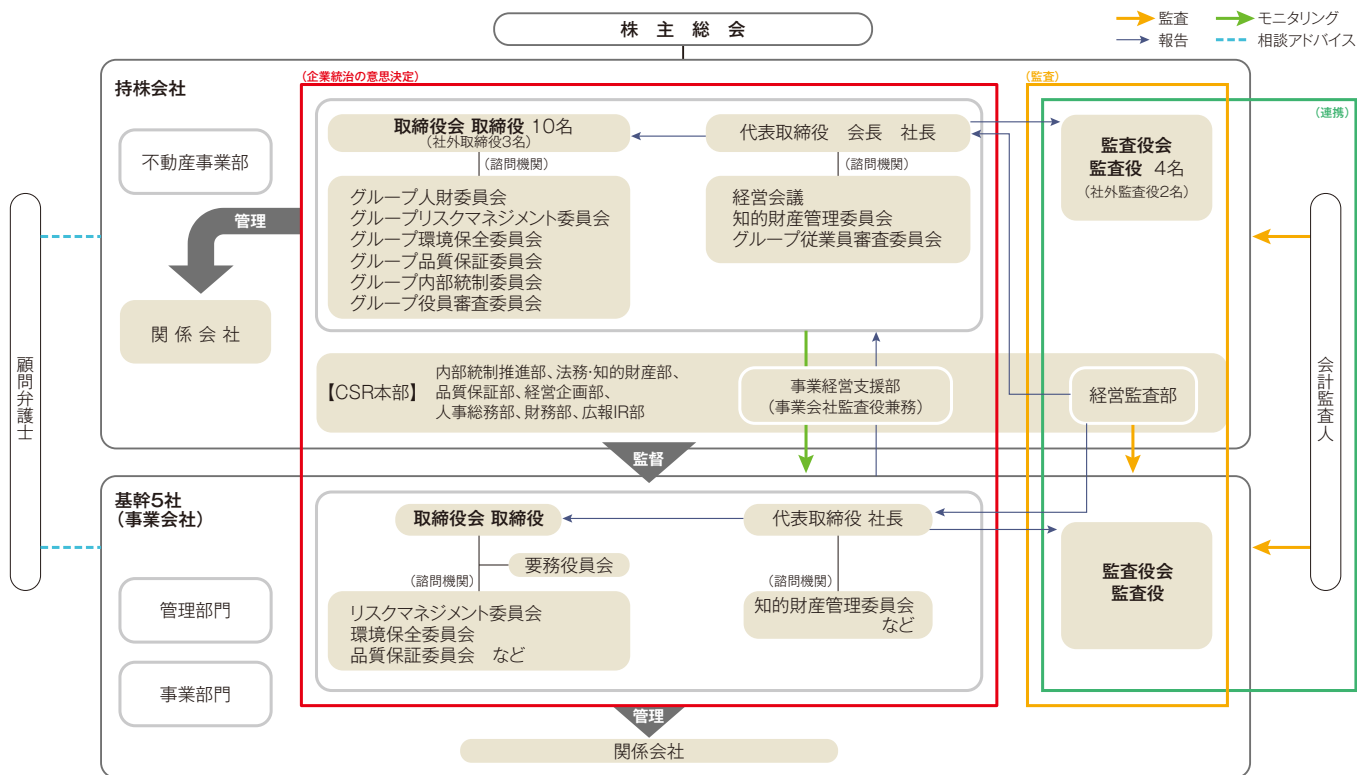
ニチレイグループの企業経営理念、ブランドステートメント、およびCSR基本方針を実現していくために、「内部統制システムの基本方針」を策定し、ニチレイグループ全体の経営マネジメントシステムの向上に努めています。

2007年9月施行の金融商品取引法（金商法）では、特に財務報告の信頼性に関

する内部統制システムに焦点を当て、その徹底が求められています。金商法に基づき、2008年度からは「2009年3月末時点の財務報告の信頼性に係る内部統制システムの状況」を内部統制報告書に記載し、有価証券報告書とあわせて提出します。これに伴い、2008年度も引き続き企業経営理念、ブランドステートメント、CSR基本方針と各種会議体、各種規程などを有機的に体系化し直し、内部統制システムの整備・再構築に取り組むとともに、日常業務においても適切な内部統制の実践に努めてきました。

なお、内部統制の評価に当たり、連結ベースで財務報告全体に重要な影響を及ぼす全社的な内部統制については、まず対象となった各社を評価した上でニチレイグループとして最終評価しました。さらに財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす業務プロセスについては、対象となる事業拠点の整備状況・運用状況を評価し、これらの結果に基づいて内部統制報告書を作成しました。

コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンスの徹底

法令等遵守と企業倫理に則した行動の推進

行動規範

ニチレイグループでは、新規法令の施行なども踏まえ、2006年度に、法令、社内規程を遵守し、企業倫理に即して行動するための指針や具体的な事例を明示した「行動規範」および「行動規範事例集」の大幅な改訂を行いました。今後はグループ教育訓練規程に基づき毎年見直していくとともに、各社掲示板の「ケーススタディ」などを通じて教育・啓発を行い、コンプライアンス経営の徹底を図っていきます。

ニチレイグループの行動規範目次（2009年4月改訂）

- 法令および社内規程・ルールの遵守
- 会社財産の有効活用と公私混同の禁止
- 社会貢献に関する行動
- 環境保全に関する活動
- 事業活動に関する基本的な姿勢
- 個人の立場と社員の立場の利害調整
- 社内における交際
- 情報セキュリティ
- 国家公務員など行政団体への対応について
- 内部通報・相談制度について

行動規範の詳細はホームページをご覧ください。

内部通報・相談制度

違法行為や社内規程などに違反する行為、企業倫理上問題のある行為、セクシャル・ハラスメントなどに関する従業員からの通報や相談に応じるため、2003年10月から内部通報・相談制度（ニチレイホットライン）を導入しています。本制度の導入から5年が経過し、より周知徹底を図るため、ポスターおよび解説シートを作成し、グループ各社のすべての事業所に掲示を促しました。本制度の存在を視覚的に示し、不正防止や法令等遵守に前向きに取り組む企業風土の醸成に努めています。

グループ経営監査

グループ各社のリスクマネジメント体制の構築と健全で持続的な成長の確保に資することを目的に、グループ内部監査規程に則した監査を実施しています。

2008年度は、コンプライアンスグループが158カ所、設備監査グループが119カ所の事業所を監査しました。グループ全体の意識向上を目的に、業務の有効性および効率性の向上、財務報告の信頼性確保、事業活動に関わる法令等の遵守、資

産の保全を柱とした「内部統制チェックシート」を各社・各事業所に配付し、自主チェックを行うとともに、内部統制システムの有効性を評価しました。

2009年度も内部統制システムの有効性の評価とリスクマネジメントの検証に重点をおいた監査を実施し、リスク発生の未然防止に努めていきます。

個人情報保護

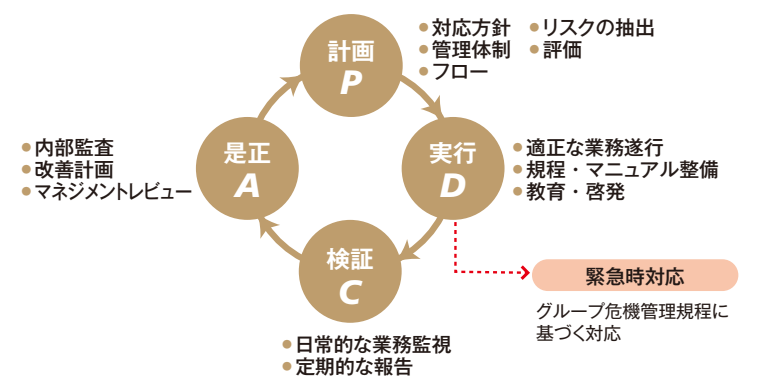
ニチレイグループでは、個人情報保護の責任体制を明確にするため、各事業会社においてCPO（チーフプライバシーオフィサー）および個人情報取扱責任者を任命しています。

また、個人情報保護の徹底とレベル向上を目指し、毎年、新入社員に対して法務研修を行うほか、事業活動上、個人情報の取り扱いが多い会社においては、「プライバシーマーク制度」に基づくマネジメントシステムの導入が有効との考えから、（株）ニチレイフーズダイレクトおよびニチレイプロサーヴが、プライバシーマーク制度JISQ15001 2006年度版への移行を完了しています。

● リスクマネジメント

当社グループの企業価値最大化を目的に、ニチレイマネジメントシステムの一環として、リスクマネジメント体制の整備に取り組んでいます。企業活動全般に関係するさまざまなリスクに対して、その影響の未然防止と最小化を図るため、リスク対応方針を策定し、リスクマネジメントサイクルの構築を進めるとともに、迅速な情報の共有や社員への教育を通じて、リスクマネジメント力の向上を目指しています。

ニチレイグループ・リスクマネジメントサイクル



お客様相談センターの活動

コミュニケーション能力の向上

1974年に創設された(株)ニチレイフーズお客様相談センターは、「もう一人の家族であるお客様との対話を通じて、安全・安心をお届けする体制の強化」をミッションとし、お客様の声を貴重な経営資源として捉え、ご指摘やお問い合わせの内容を分析・発信することで、業務改善に役立てています。

2008年度は、下記の品質方針のもと、お客様とのコミュニケーション能力の向上と社内連携の強化に努め、全社的なCS(Customer Satisfaction：お客様満足度)向上の旗振り役としてCSRを推進しました。

2008年度 お客様対応の品質方針

お客様満足度(CS)向上システムの確立とリスクマネジメント(RM)の実践

- ①お客様応対力の強化(応対品質の向上)
- ②お客様情報の社内共有化と提案活動の推進(製品品質の向上)
- ③リスクマネジメントの推進(経営品質の向上)
- ④全社的CS教育の推進(CSの向上)

全社的CS教育の推進

CSの最前線部署として構築した「お客様相談センターCS実践研修プログラム」の運用は3年目にいたり、研修対象者を全従業員に拡大するとともに、自発的に研修に参加する従業員も増加してきました。

また、全国の生産工場の品質管理担当者を対象に、外部講師と連携して「報告書作成セミナー」を年2回開催し、CS度の高い報告書作成の実現に取り組んでいます。



お客様の声に耳を傾けるニチレイフーズ相馬社長(右)

研修プログラム(半日ショートコース)

A 講義：クレーム対応の基本とCS&RMの重要性について

B 実践：電話対応のシミュレーションと情報統計分析システムの解説と活用

CS研究会の取り組み

冷凍食品は、－18℃以下の保存においては「最強の食品」と言えますが、流通過程で急激な温度変化を受けると、商品が本来持つおいしさや商品特長が損なわれてしまいます。

ニチレイフーズは、(社)日本冷凍食品協会の支援のもと、同業8社とともに発足した「CS研究会」の座長企業として、同業各社に寄せられるクレームについての情報共有・分析を行うほか、流通業者様向けに夏場の温度管理の要請を行うなど、さまざまな活動に取り組んでいます。

また、協会主催の消費者団体との意見交換会に参加し、相互理解を深めさせていただくとともに、当社の生産工場の見学会を通して徹底した品質管理の実態を体験していただきました。



消費者意見交換会の風景(中央奥 浦野会長)

お客様の声を受けた パッケージ表示改訂事例

パッケージを通して、独自の安全への取り組みと徹底した管理体制を生活者へ発信しています。



お客様の声を反映したパッケージ表示

サステイナブル経営格付けの結果

ニチレイフーズは、外部機関による格付評価を受けています。結果を真摯に受け止め、今後の改善に役立てていきます。

所見

1 総合評価

(株)ニチレイの過去3年にわたる格付参加の後をうけ、ニチレイグループの中核的事業会社で加工食品事業担当である貴社の3回目の格付評価ですが、結果として貴社は、消費者の身近に位置する食品メーカーとして、学会が求めるサステイナブル経営に向かっていくつかの点で着実に進んでいると評価されました。

経営分野の「D リスク戦略」や環境分野の「H 廃棄物削減および資源循環」、また社会分野の「O 消費者への責任履行」については評価点も高く、また昨年より向上が見られました。特に、貴社で掲げられている「7つの基本価値」を通じて高い顧客価値の創造を目標とされている中で、お客様相談センターの対応などに象徴的に表れている消費者への責任履行のレベルの高さについては、「最も信頼される食品企業」を目指しておられるだけあり、賞賛に値します。

一方、一部に昨年より評価点の低くなっている項目がありますが、これは社会が企業経営に求めるものを本学会の評価基準に反映した結果であり、一部評価基準の切り上げや評価の厳格化に伴うものである、必ずしも貴社の取り組みの後退を表したものとはお考えおりませんが、社会のニーズの変化に対応する課題が新たに生まれているとも言えましょう。

2 優れている項目とその理由

食品メーカーとして「安全・安心」を念頭において取り組まれ、相馬社長が「食の安全に関して、やるべきことは日々やっているが、薄氷を踏む思いで経営している」と述べておられるように、やるべきことをやっていてもそれに安住することなく常に危機感を持って対応してゆく姿勢が、上に記したような「消費者への責任履行」や「リスク戦略」での素晴らしい評価に繋がっているものと評価致します。リスクマネジメント委員会などが有効に機能していると見られること、昨年10月の「冷凍いんげんからの殺虫剤検出事件」でこれまでの貴社のリスク戦略が効果的であることが結果として証明されたことなど、特に「食の安全」に関するリスク対応は優れていると評価致します。

また、従業員関係につきましても、「Q 就業の継続性」「R 機会均等」「S 仕事と私生活的調和」などにおいて、必ずしも社員限定の戦略・仕組ばかりではなく、パートタイマーの方にも社員同様の取組みをされていることが多いと見られるのは、サステイナブルな社会の構築に貢献する経営像を追及する学会として、心強く感じました。更に一層の、非正規社員への社員同様の処遇等の拡大を目指すことを期待いたします。

3 改善を要する項目とその理由

経営分野の「B 企業統治」における取締役としての内部統制義務(相互牽制義務と任務懈怠回避義務)に関する取組みでは、単に法の定める範囲での取組みに止まっていると見られる貴社の現状は、企業統治をより確実にする上での課題を残してい

ると考えられます。今後の経営改革時に検討いただくことを期待します。

環境分野の「K 地球温暖化防止」では、GHG総量目標の設定などで進展が見られましたが、通勤・営業・出張などでの人の移動に伴う環境負荷低減への、一層の取組みをお勧めします。

「M 土壌等汚染の防止・解消」に関しては、食品メーカーとして化学物質の使用はなく、十分に確認したうえで操業を続けているので、通常操業下において土壌汚染問題は馴染まないとのこと説明でした。そのお考えはよく理解できますが、現在の良好な状況の維持のため、また新しい工場を建設する場合などに備え、土壌汚染に対する目標と計画を定め財務会計等への反映の方針・手順を定めておくことをお勧めします。

環境分野の「J 生物多様性の保全」において、社会分野の「T CSR調達」との組み合わせで同一部署からの指令による全社的取組みを開始されていることは、まだ現時点では両側面とも十分な対応水準に達しているとはいえませんが、前進が見られ今後の進展が期待されます。

また評価側面の中には、方針、仕組、実績があるのに社会環境報告書などへの開示がないことで、減点となっているケースがあります。実践していることはしっかりその実態を開示し、一方、問題となるような事実がないということもきちんと表明することは、ステークホルダーに対して責任をともなうコミットメントとしての意義があるとともに、社内においても一層の緊張感を保つ効果を発揮します。是非、積極的な一層の情報開示を進めていただきたいと思います。不言実行とか陰徳を積むなどは現在のCSRに馴染むものではありません。

4 その他特記事項等

社長は「利益とは消費者の信頼の証」と考えておられるとのこと、世界的企業が赤字を余儀なくされている中で今後の経済見通しも混沌としている状況ではありますが、是非、消費者の身近に位置する食品メーカーとして、貴社が消費者からの一層高い信頼を獲得され、その証としての利益拡大と企業価値向上につなげられることを期待してやみません。

また、本年4月から環境経営推進部を設置され、グループの中核事業会社として率先して環境・CSRに取り組む姿勢は、サステイナブル経営の目的に合致するものと考えます。

なお、「B 企業統治」では社外取締役や社外監査役を設ける要求が出ておりますが、本学会としては、(株)ニチレイという持株会社のグループ会社出身者は本来の意味での「社外」とは認めていないことから、貴社の評価点は低くなっております。

2008年度の格付評価を通じて、私どもは貴社と問題意識を相当部分共有しつつ、貴社が自社の特色を踏まえ、「サステイナブル経営のあるべき姿」を目指して研鑽を重ね実績を積まれるなど、その真摯な取組みの一端に触れることができましたことは、大変参考になるものであり、ありがたく存じます。僭越ではありますが、貴社単独で3回の格付を経ましたので、次回は(株)ニチレイとしての格付参加をご検討いただきたいと存じます。

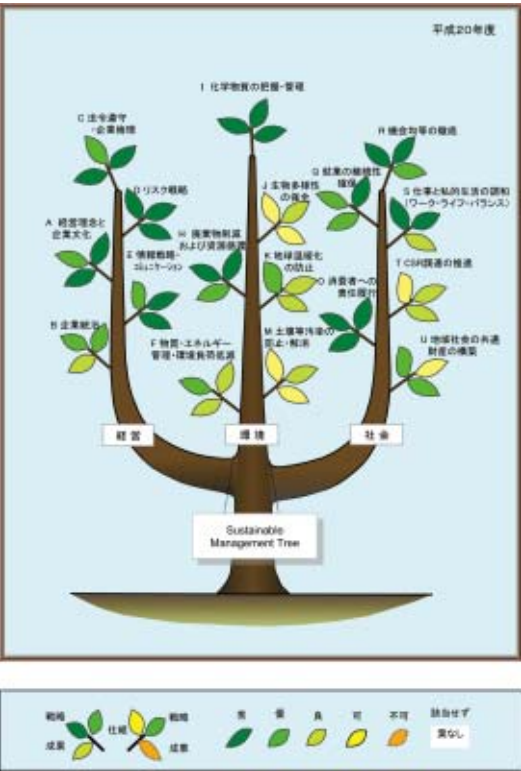
今後とも貴社と私どもの共創関係を堅固なものにして、持続可能な社会の構築に少しでも貢献できるよう衷心より願いたします。

2009年4月27日

NPO法人 環境経営学会

副会長 サステイナブル経営研究委員長

木俣 信行



「サステイナブル経営格付け」について

NPO法人「環境経営格付機構」による、企業の持続可能(サステイナブル)な取り組みを総合的に評価する格付評価で、7回目となる2008年度は7社が参加しました。評価内容は「経営」「環境」「社会」の計17項目に対して、それぞれ戦略・仕組・成果の3つの視点で合計147設問から評価されます。評価結果は図のように、1本の木で表され、「経営」「環境」「社会」を示す3つの幹と葉の色で、企業の取り組みの状況を一覧することができます。